

小学校外国語活動におけるポートフォリオの試行に関する研究

北條 礼子*・矢嶋 隆之**・松崎 邦守***

(平成24年9月28日受付；平成24年12月12日受理)

要 旨

平成23年度より全国公立小学校高学年において外国語活動（英語）が必修化されたが、現在時間数は高学年より少ないものの、低学年から外国語活動を実施している小学校は全国で7割を超えている。その一方、5年生で既に同活動に意欲が低く、不安が高い児童が38%存在していることも報告されているため、児童の同活動への動機づけを高める手段が必要な状況となっている。2011年10月から2012年3月にかけて、5年生児童の同活動への動機づけの向上を目的とし、教授ツールとしてのポートフォリオを試行した。本学附属小学校5年生75名が参加したが、ポートフォリオは参加者から概ね好意的な評価を受け、5年生を対象とした教授ツールとしてのポートフォリオの効果が期待できることがわかった。

KEY WORDS

portfolio ポートフォリオ instructional tool 教授ツール motivation 動機づけ
language activities at elementary school 小学校外国語活動

1. 研究の背景：

1.1 小学校外国語活動（英語）の現状

文部科学省は2008年3月に新学習指導要領を告示し、外国語活動は2011（平成23）年度より「総合的な学習の時間」から独立し、全国公立小学校の5・6年生において週1回年間35回程度必修化された。日本英語検定協会（2012）は全国1,463校の公立小学校を対象とした外国語活動に関する調査を実施しているが、その結果、平成23年度に外国語活動が平均年間時数として「23-35」時間と「36-70」時間を加えた実施率は5・6年生ともに93%になっている。また、4年生以下の平均年間実施時数をみると、全く外国語活動を実施しなかったのは1年生では26.6%、2年生では26.6%、3年生では23.0%、4年生では22.1%であり、4年生以下でも70%以上の公立小学校で外国語活動が行われていたことが報告されている。ただし、年間「4～11」時間の実施が最も多く全体の30%となっている。

しかし、外国語活動が必修化された高学年をみると、英語が嫌いになっている児童が相当数いることも明らかになっている（横石，2012）。外国語活動の必修化が英語嫌いを作らないことが目的であったにもかかわらず、横石の調査では、外国語活動に対して「低意欲・高不安」の状態になっている子どもが両学年においてそれぞれ38%存在することが報告されている。

1.2 小学校外国語活動（英語）における反省的实践家の養成とポートフォリオ活用

ポートフォリオは、どのようなものでも収集する雑多ファイルではなく、一言でいうと目的つきファイルである。

ポートフォリオは、学習成果を収集しながら学習過程を時系列に記録することができ、収集された成果を基に学習者が自分自身の学習を定期的に振り返り修正していくことができる。さらに、協同学習の場面提供という観点から、カンファレンスではそれぞれの学習成果についてお互いに発表し合うことで学習者間の学び合いを促進することが可能となる。

筆者らは、これまで、学習者の自己調整学習能力を高めるためにポートフォリオを教授ツールとして活用し様々な教育分野で研究を実施し、ポートフォリオを活用した学習活動には、学習の指針を示すガイドラインの事前明示、授業の振り返りを記述するゴールカードの実施、ポートフォリオ作成をとおして学習したことを、定期的に話し合いをしながら振り返る場としてのカンファレンスの実施を組み込んできた（松崎2003；2004；松崎・北條 2007）。

しかし、上述の研究は、中学生以上を対象としており、小学生は対象となっていなかった。外国語学習において、ポートフォリオの活用が勧められているが、実際にはその活用例はほとんどないのが現状である。

2. 研究の目的：

本研究の目的は、小学校外国語活動において、高学年（5年生）を対象に教授ツールとしてのポートフォリオが運用可能かどうかを明らかにすることである。

3. 研究の方法：

3.1 実験実施時期： 2011年10月～2012年3月

3.2 対象者： 教員養成系J大学附属小学校5年生75名

3.3 測定具：

①外国語活動におけるポートフォリオを活用に関する5段階尺度形式13項目

②児童が作成したポートフォリオのカンファレンスにおける自由記述

3.4 教員養成プログラムの留意点：

設計上の留意点として、これまで実践してきた研究結果から、ポートフォリオ作成過程で重要な活動であることが明らかになった以下の4つの活動を組み入れた。

①ガイドラインの事前明示

②ゴールカードの実施

③カンファレンスの実施

④仲間との学び合いの活動

3.4.1 ガイドライン

今回の取り組みでは、以下に示すガイドラインを事前に児童全員に配布した。ガイドラインでは、ポートフォリオの作り方の説明に加えて、学習の目当てと学習計画を児童に提示した。

外国語活動（英語）ポートフォリオの作り方説明書

今年の大学英語では、配られたファイルを使って「ポートフォリオ」を作成していきます。

「ポートフォリオ」とは、自分の学習の成果を「目的にそって」集めていくものです。これから、ポートフォリオの作り方を説明します。

1. ポートフォリオを作成する目的

みなさんの次のような力をさらに伸ばすためです。

○自分の成長に気づけるようになる。

○友達の頑張りや成長をみて、自分の学習に生かせるようになる。

○学習したことがよく分かるようになる。

2. ポートフォリオとして集めるもの

①毎回の学習の成果や自分や友達の頑張りを評価したもの。

②全10回の大学英語が終わったあとに、自分の頑張り振り返ったもの。

※詳しい内容は、5で説明します。

3. ポートフォリオを作成する期間

10月21日（金）～3月2日（金）の活動まで

4. ポートフォリオの保管

ポートフォリオの保管場所は、教室内のポートフォリオ専用ファイルボックスの中とします。各自が責任を持って保管します。先生から指示があったときだけ、家に持ち帰ります。

ポートフォリオに収められた学習成果に基づいて、みんなで学び合い（学び愛）をしますので、絶対になくさないでください。

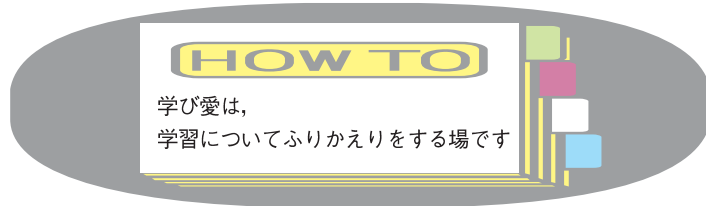


5. ファイルに入れるものについて

内 容	収 集 の 時 期
① ポートフォリオの作り方説明書	・今日さっそくファイルへ！
② ゴールカード（自分のめあてやそのめあてに対する自己評価）	・毎授業終了時
③ 配布されたプリント （ファイルするよう指示があったもの）	・授業で指示します。 （先生の話をよく聞きましょう）
④ 「学び愛」シート及び 「学び愛」ふりかえりシート	・「学び愛」終了時
⑤ 「学び愛」カード	・「学び愛」で仲間の発表を聞いたとき
⑥ まとめカード （全10回の学習をとおして、自分が成長したことや、頑 張ったことについて）	・全10回の授業が終わったとき
⑦ その他（自分が特に必要であると判断したもの）	・いつでも

※ファイルに入れるものには日付を書くらんがありますので、必ず書きましょう！日付を書くらんが無いものを入れるときは、自分で必ず日付を書きましょう。

6. 学び合い（学び愛）について



このポートフォリオ学習では、「学び合い（学び愛）」を大事にします。

「学び愛」の内容（どのようなことについて振り返るのかや参加者など）については、1週間前にあらかじめお知らせします。

次のとおり、ポートフォリオ作成に関し「学び愛」を2度行います。

- ①グループでの「学び愛」… 班ごとに実施 11月25日（金）
- ②全体での「学び愛」… 全員参加で実施 3月2日（金）

7. ポートフォリオ学習で大切なことについて

このポートフォリオ学習では、仲間との学習を大切にします。お互いに学び合いながら学習を進めていきましょう。

8. 学習計画の修正について

学習を進めていく中で、今日説明した内容の一部を修正する必要がある場合には、事前にみなさんにお知らせします。

5年生ポートフォリオ学習計画

5年生のめあて

<p>その1 フォニックスのルール ○5年生で習うフォニックスのルールをマスターしよう！ フォニックス5級「礼儀正しい母音」をマスターしよう。 フォニックス4級「連続子音」をマスターしよう。</p>
<p>その2 話すこと ○自己紹介でつかう簡単な英文を英語らしく言えるようになろう！</p>
<p>その3 書くこと ○ピクチャー・ディクショナリーに英単語を書いてみよう！</p>

時間	学習内容
1 時間目 10/21	○事前テスト（フォニックスのルールをつかってどのくらい読めるかな） ○ポートフォリオ作成のためのガイドライン ※みなさんに、一人一冊ファイルを配ります。 このファイルの使い方や、中にとじていくものについてお話しします。
2 時間目 10/28	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○フォニックス 5 級「礼儀正しい母音（パート 1）」
3 時間目 11/4	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○フォニックス 5 級「礼儀正しい母音（パート 2）」
4 時間目 11/11	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○フォニックス 5 級「礼儀正しい母音（パート 3）」、 ピクチャー・ディクショナリー
5 時間目 11/25	○グループでの学び愛（中間） ※これまでに記入したゴールカードを見ながら、自分や友達の頑張っているところや成長したと思うことについてグループで発表し合います。
6 時間目 12/9	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○フォニックス 4 級「連続子音（パート 1）」
7 時間目 1/13	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○フォニックス 4 級「連続子音（パート 2）」
8 時間目 2/3	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○自己紹介① 例：Hello. My name is 正. ピクチャー・ディクショナリー
9 時間目 2/24	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○自己紹介② 例：I like surfing. That's all. Thank you. ピクチャー・ディクショナリー
10 時間目 3/2	○事後テスト（フォニックスの学習をしてどのくらい読めるようになったかな） ○グループと全体での学び愛（最終） ○まとめカードの記入 ※今まで書きためたゴールカードを見ながら、10回の授業を振り返りながら、まとめのカードを書きます。





※学習を進めていく中で、この10回の授業計画を変更する場合には、みなさんに事前にお知らせします。

3.4.2 ゴールカード

今回の取り組みでは、以下のようなゴールカードをNo1からNo4まで4枚用いた。「今週の目当て」は指導者が提示することとし、子どもには「ふりかえり」として、自分自身に対するふりかえりと生活班仲間のよい点に気づくように工夫した。

5年生ゴールカード (No.1) 5年 組 番 名前

○次の時間の学習予定を確認しながら記入しよう!

日付	今週のめあて	新しく学んだこと・できるようになったこと 頑張ったこと・見つけたこと
10/28	○フォニックスの活動	○自分のめあてに対するふりかえり <input type="text" value="A ・ B ・ C"/> . <hr/> 今日の見つけた!  同じグループの _____ さんが, _____ していた。 それをみて _____ と思った。
11/4	○フォニックスの活動	○自分のめあてに対するふりかえり <input type="text" value="A ・ B ・ C"/> . <hr/> 今日の見つけた!  同じグループの _____ さんが, _____ していた。 それをみて _____ と思った。

※A：自分のめあてが達成できた B：自分のめあてを半分は達成できた C：もっとがんばらなきゃ

3.4.3 カンファレンスと仲間との学び合いの活動

今回の取り組みでは、カンファレンスは中間時期の5回目と最終の10回目に実施した。このカンファレンスは仲間との学び愛の活動ともいえる。カンファレンスに必要な書式は、通常カンファレンスシートとっているものを「学び愛シート」、カンファレンス直後に記入するカンファレンス・リフレクション・シートを5年生にわかりやすいように「ふりかえりシート」という名称にし、2回のカンファレンスで用いた。1回目のカンファレンスで用いたものを以下に示す。

2011年11月25日 (金)

グループでの学び愛シート

班 番 名前

これから、私がこれまでの大学英語についてふりかえったことを発表します。

1 私が大学英語の授業の中で、一番がんばっていることは

..... です。

2 私が大学英語の授業の中で、前よりできるようになったことは/よくなったことは

..... です。

3 私は、礼儀正しい母音の学習をして、

..... ということが分かりました。

4 ピクチャー・ディクショナリー作りでがんばっていることは、

..... です。

4.1.2 外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する5段階尺度形式13項目の頻度数の集計結果と母比率不等直接確率計算結果

次に、全13項目について5段階尺度形式の頻度数を3段階（「はい、少しはい」を「肯定」、「どちらでもない、少しいいえ、いいえ」を「それ以外」）とし、「2：3」の母比率不等の直接確率計算を行ったが、その結果は表2に示すとおりである。

表2 外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する13項目の集計結果と直接確率計算の結果（N=75）

項目	項目内容	肯定	中立+否定	p
1	ポートフォリオ作成で頑張ろうと思った	43	32	.00 **
2	ポートフォリオ作成で見通しがもてた	46	29	.00 **
3	ゴールカードで頑張ろうと思った	41	34	.00 **
4	ゴールカードでめあての達成に取組めた	48	27	.00 **
5	めあての振り返りは次のめあてに役だった	40	35	.01 *
6	めあての振り返りは次の授業の意欲につながった	44	31	.00 **
7	友達のよいところの発見は自分の学習に有効だった	41	19	.00 **
8	カンファレンスで自分の学びを振り返れた	52	23	.00 **
9	友達の発表から友達のよい点に気づけた	51	24	.00 **
10	友達の発表から自分も頑張ろうと思った	45	30	.00 **
11	カンファレンスで自分の学習に生かせることをみつけた	48	27	.00 **
12	友達のコメントでもっと頑張る気になった	46	29	.00 **
13	カンファレンスはやってよかった	50	25	.00 **

*p<.05 **p<.01

表2から、項目5は5%レベルで、後の12項目は1%レベルで肯定的な回答数がそれ以外の回答数より多かった。以上から、本研究の教授ツールとしてのポートフォリオは、5年生児童から概ね肯定的な評価を受けていたことがわかった。さらにカンファレンスに関する評価が高い傾向がみられたが、数値が4点台に達していないことから、改善の余地はあると考えられる。

4.1.3 外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する自由記述

4.1.3.1 カンファレンス・シート1にみられた自由記述

第1回目のカンファレンス直後に記述されたカンファレンス・シートの主な内容は以下のとおりである。

①私が大学英語の授業の中で、一番がんばっていることは—

しっかり発音すること、大きな声を出すこと、積極的に取り組むこと、友だちと教え合いわからないところも協力すること、いろいろな単語や読み方を覚えること、しっかり絵を見て発音しながら覚えること

②私が大学英語の授業の中で、前よりできるようになったことは/よくなったことは：

正しく発音できるようになったこと、礼儀正しい母音を言えるようになったこと、発音を前よりうまくできるようになったこと、ちゃんと声を出せるようになったこと、英語教室で習わない単語を読めたり書けるようになったこと、前よりちょっとはえいごがすきになったこと

4.1.3.2 カンファレンス・リフレクション・シート1にみられた自由記述

①友だちからもらったコメントの中には _____ というものがありました。：

積極的にやっている、僕にいいことを言ってくれているしみんなと結構一緒だった、苦手なことに挑戦する、自分も頑張ろう、もっとおぼえたい

②友だちの発表の中で、これからの自分の学習にいかせそうなことは _____ です。：

もっともっとがんばること、いろいろなことにチャレンジしていくこと、いろいろな英語を覚えてもっと上手に発音すること、努力するとたくさんおぼえられること

4.1.3.3 カンファレンス・シート2にみられた自由記述

①私が大学英語の授業の中で、一番がんばっていることは—

英単語をきちんと書けたこと、前より上手に発音ができたこと、英単語をたくさん覚えられたこと、ピクチャー・ディクショナリー、読み書き

②私が大学英語の授業の中で、前よりできるようになったことは/よくなったことは：

知らない単語を覚えることができたこと、前よりもたくさんの単語を覚えたこと、自分のがんばりに気づけるよ

うになったこと、大きい声で発音できるようになったこと、単語をうまく書けるようになったこと、発音の仕方

4.1.3.4 カンファレンス・リフレクション・シート2にみられた自由記述

○友だちの発表で、これからの自分の学習にいかせそうなこと：

教え合えるようになりたい、見習わなければならないことがたくさんあったので人のいいところを自分のものにしたい、みんなといいところを見つけあって楽しかった、みんなすごく頑張っていてびっくりした、自分が成長して嬉しかった、これからもあきらめないで頑張ろうと思った、一緒に頑張ろうと書いてあって嬉しかった、私ももっと英語を頑張りたいと思った

以上から、ポートフォリオを活用した学習は5年生児童から肯定的に捉えられており、カンファレンスにおいて仲間から前向きな刺激を受けていることがうかがえる。さらに5年生を担当した授業者（学部生、大学院生）の感想の中に、ゴールカードで目当てを提示したことにより、子どもが見通しがもてたことや、友だちに自分のがんばりを認められて嬉しそうだったとの意見がみられた。

5. 今後の課題

本研究の外国語活動におけるポートフォリオの活用は対象である5年生児童から概ね肯定的な反応が得られた。特に、カンファレンスの有効性が強い傾向が見られた。しかし、概ね肯定的ではあったが、対象者が中学生以上である先行研究に比べて反応が若干低いと思われる。またカンファレンスの時間が短いことから、発表ルールの一層の工夫も必要である。さらに、自由記述の結果から、カンファレンス・リフレクション・シートの指示文の表現が5年生には少し難しかったと考えられる。今後は、ポートフォリオ活用の効果がより向上するように、さらに工夫する必要があると考えられる。

引用・参考文献

- ベネッセコーポレーション. 「第2回 小学校英語に関する基本調査（教員調査）第2部 第1章 第1節英語活動の実態」. 2010年9月1日検索.
<http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo-eigo/2006/pdf/data-07.pdf>
- Curtain, H., & Pesola, C.A. (1994). *Languages and children: Making the match* (2nd ed). White Plains, NY: Longman. (伊藤克敏ほか(編). 『児童外国語教育ハンドブック』. 東京: 研究社, 2005).
- 北條礼子・松崎邦守. (2006). 「ポートフォリオを活用した大学生ゲスト・ティーチャー (GT) による英語活動の試みー反省的実践家養成を目指してー」. 『小学校英語教育学会紀要』. 第6号. 43-48.
- 北條礼子・大田亜紀. (2009). 「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」. 『教育実践研究』. 第19集. 19-26.
- 北條礼子・君 佳子. (2010). 「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」. 『教育実践研究』. 第20集. 19-26.
- 北條礼子. (2010). 「ポートフォリオを活用した反省的実践家としての小学校英語教員養成プログラムの設計と試行」. 上越教育大学紀要 第29巻.
- 北條礼子・君 佳子. (2011). 「小学校英語活動における文字指導の試み」. 『教育実践研究』. 第21集. 1-8.
- Klenowski, V. (2002). *Developing portfolios for learning and assessment: Processes and principles*. London: Routledge Falmer.
- 松川禮子. (2004). 『明日の小学校英語教育を拓く』. 東京: アプリコット.
- 文部科学省. (2001). 『小学校英語活動実践の手引き』. 東京: 開隆堂.
- 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』. 東京: 東洋館出版社.
- 中山兼芳編. (2001). 『児童英語教育を学ぶ人のために』. 京都: 世界思想社.
- 日本英語検定協会. (2012). 『小学校での外国語に関する現状調査』. 2012年9月12日検索.
<http://www.eiken.or.jp/news/kyoukai/12-518r01.html>
- 野呂忠司. (2007). 「小中連携と文字指導」. 『小学校英語と中学校英語を結ぶー英語教育における小中連携ー』. (松川禮子・大下邦幸編著). 東京: 高陵社書店. 102-118.
- 旺文社英語教育研究室. (2009). 「小学校の英語活動に関するアンケート調査結果報告」. 『週刊教育資料』. 東京: 教育公論社. 42-50.
- 佐藤 学. (1996). 『教育方法学』. 東京: 岩波書店.
- Shöne, D. (1983). *The reflective practitioner: How professional think in action*. NY: Basic Books.
- 横石和子. (2012). 『小学校外国語活動における児童の不安が学習意欲に及ぼす作用に関する調査ー不安に関連する諸要因に着目してー』. 上越教育大学大学院提出修士論文.

A Study of Introducing Portfolios into Foreign Language Activities at Elementary School

Reiko HOJO* · Takayuki YAJIMA** · Kunimori MATSUZAKI***

ABSTRACT

In April of 2011, foreign language (English in principle) activities were formally introduced into 5th and 6th graders of all the public elementary schools in Japan. However, the activities have been conducted for over 70% pupils from 1st to 4th graders all over Japan. In addition, it has been reported that about 38% of both 5th and 6th graders have come to dislike the English activities. It is crucial to enhance the positive attitudes of 5th and 6th graders toward the activities, so portfolios can be expected to play this role of enhancing their motivation toward them.

From October in 2011 to March in 2012, 75 5th graders participated in this study, which was based on the results of the projects utilizing portfolios which aim to nurture students' reflective attitudes toward learning English. Data was obtained through a questionnaire and the students' comments at conferences held twice during the study. The results of the questionnaire revealed that the project utilizing the portfolios was evaluated rather positively by the participants. Moreover, the comments supported the results.

* Humanities and Social Studies Education

** Nakajima Elementary School, Nagaoka, Niigata

*** Hokkaido University of Education